

周手術期看護実習

1. ねらい：手術療法を受ける対象とその家族を総合的に理解し、周手術期の看護実践能力を養う。

2. 実習目標と到達目標

実習目標	到達目標	学習内容
1. 手術療法を受ける手術前の対象とその家族を総合的に理解する。	①対象の発達段階と発達課題の達成状況を理解できる。 ②手術を受ける必要性について説明できる。 ③手術オリエンテーションの内容とその目的を説明できる。 ④手術が身体に及ぼす影響を理解できる。 ⑤麻酔が身体に及ぼす影響を理解できる。 ⑥対象に実施された術前の検査を理解し、アセスメントができる。 ⑦対象とその家族の心理状態を理解できる。 ⑧対象とその家族の生活への影響を理解できる。	・発達段階・発達課題の達成状況 ・病態、術式（手術による形態、機能的変化） ・検査の内容と評価 ・手術前日、当日の準備 ・手術オリエンテーション（術前訪問を含む） ・手術前訓練の目的、内容 ・手術侵襲による生体への影響（ムーアの分類） ・創傷の治癒過程と看護 ・麻酔の種類、副作用と看護 ・術後合併症と看護 ・心理的状态と看護 ・生活への影響と看護
2. 手術を受ける患者を取り巻く治療環境と身心への影響が理解できる。	①手術室の環境を理解できる。 ②手術室の安全管理を理解できる。 ③清潔区域と不潔区域の区別を理解できる。 ④手術の体位と固定方法、留意点を理解できる。 ⑤手術中の全身状態の経過を理解できる。 ⑥術後の環境調整ができる。	・手術室入室の方法と留意点 ・術後ベッド作成 ・感染予防対策 ・安全管理 ・手術の機器、器具類の準備 ・手術の体位と器官系に及ぼす影響 ・術後に必要な機器の準備 ・酸素療法と看護 ・輸液療法と看護 ・輸血療法と看護
3. 手術後の全身状態を観察し、回復を促進する援助ができる。	①術後に起こりうる合併症を理解できる。 ②術後の全身状態を系統的に観察できる。 ③術後の患者の変化をアセスメントできる。 ④術後の検査データをアセスメントできる。 ⑤患者の状態を踏まえて看護上の問題を抽出し、優先順位を判断できる。 ⑥術後合併症予防にむけた、具体的な援助方法を	・手術後の系統的な観察項目 ・創傷の観察と処置 ・留置物・装着物の管理 ・術後合併症の予防と発症時の看護 ・早期離床と看護 ・回復状態に応じた生活支援技

	立案できる。 ⑦術後の患者の安全・安楽を考慮した援助を実践できる。 ⑧早期離床に向けての援助を実施できる。 ⑨実践した援助を評価し、計画の修正・追加ができる。	術 ・リハビリテーションと看護 ・術後の治療環境
4. 患者の生活状況を考慮し、社会復帰に向けた支援ができる。	①退院後の生活状況が理解できる。 ②退院後の生活上の問題が理解できる。 ③健康を維持するために必要な支援ができる。	・退院支援 ・継続看護 ・保健・医療・福祉の法律と制度
5. チーム医療における看護師の役割、他職種連携が理解できる。	①手術室の看護師の役割が理解できる。 ②患者を取り巻く医療チームとその連携の必要性が理解できる。 ③危機管理の重要性が理解できる。	・看護師の役割分担と業務内容 ・気管内挿管・抜管、脊髄麻酔・全身麻酔導入時の看護 ・手術室、ICUの看護 ・術前・術後の申し送り ・リスクマネジメント

3. 1) 実習展開

		実習内容	
		午 前	午 後
1 日目	学内①	・学内実習オリエンテーション ・DVD 視聴 ・確認テスト（看護師国家試験過去問題）	・病棟オリエンテーション ・事前学習 ・シミュレーション学習（準備含む）
2 日目	学内②	・シミュレーション学習	・シミュレーション学習（片付け含む） ・早期離床の演習
3 日目	臨地①	・病棟・手術室・ICU オリエンテーション ・患者紹介 ・同意書確認 ・フローシートの作成	・術前説明（入院オリエンテーション含む） ・術前処置 ・情報収集
4 日目	臨地②	・情報収集 ・術前評価 ・病棟の看護計画に沿った実践	
5 日目	臨地③	・手術見学 ・術後観察 ・術後の状態に応じた生活支援	
6 日目	臨地④	・病棟の看護計画に沿った実践 ・術後観察 ・術後の状態に応じた生活支援	・関連図・全体像、計画を発表し、看護計画の妥当性、方向性、優先順位を検討
7 日目	臨地⑤	・看護計画に沿った実践および術後の状態に応じた援助	

8 日 目	臨地⑥	・看護計画に沿った実践および術後の状態に応じた援助 ・看護計画の追加、修正 ・中間自己評価	
9 日 目	臨地⑦	・看護計画に沿った実践および術後の状態に応じた援助 ・看護計画の追加、修正	
10 日 目	臨地⑧	・看護計画に沿った実践および術後の状態に応じた援助 ・看護計画の追加、修正	
11 日 目	臨地⑨	・看護計画に沿った実践および術後の状態に応じた援助援 ・看護計画の追加、修正	
12 日 目	臨地⑩	・看護計画に沿った実践および術後の状態に応じた援助援 ・看護計画の追加、修正	
13 日 目	臨地⑪	・看護計画に沿った実践および術後の状態に応じた援助援 ・看護計画の追加、修正	
14 日 目	臨地⑫	・上記（午前中の実習） ・最終自己評価	・最終カンファレンス ・実習のまとめ
15 日 目	学内③	・LTD-NP カンファレンスの準備	・LTD-NP カンファレンス ・実習記録の整理と提出 ・確認テスト（看護師国家試験過去問題）

- (1) 実習展開は、手術の状況で異なる。
- (2) 実習経過や実習目標到達の程度により複数人を受け持つこともある。
- (3) 全身麻酔の患者を優先して受け持つが、術式によって腰椎麻酔の患者も受け持つこともある。

2) カンファレンス

- (1) 毎日実施し、参加者で学びを共有・検討し、看護の優先順位、妥当性などを検討する。
- (2) 毎朝の行動計画発表時に、カンファレンスレジメを指導者と教員に提出する。
- (3) カンファレンス内容は実習目標を達成できるように学生が設定する。
- (4) 手術翌日の計画発表は、周手術期-4 用紙、現在立案しうる全ての合併症についての周手術期-5 用紙をコピーして資料とする。用紙を共有等し、コピー用紙の使用枚数は最低限とする。
- (5) 臨地実習中、1 回はリスクマネジメントのカンファレンスを実施し、安全な看護につなげる。
- (6) 学内実習時の LTD-NP カンファレンスの詳細は、基礎看護学Ⅱ実習を参照する。
- (7) 最終カンファレンスは参加人数によって 30 分～45 分間とし、要約して発表項目を絞ったり、優先順位をつけたり等、時間内にできるように工夫して発表する。

3) 記録

- (1) 行動計画発表時は、記録用紙を用いながら効果的に行う。
- (2) 手術室の見学実習時、周手術期-9 を持参し、手術見学目的を実習指導者に伝える。
- (3) 合併症予防や退院支援の為に資料を作成する場合、臨地実習指導者を通じて、必要時、医師、栄養士、PT、OT、ST 等と連携をはかり、それらの職種の許可を得て実習で使用する。

4) 項目実習

・他職種カンファレンスに参加 ・術後ベッド作成 ・手術室へ入室準備、移送、引継ぎ ・手術室から病棟への迎え、移送、引継ぎ ・ストーマ管理 ・術後の処置（創処置・留置物抜去など） ・検査・麻酔科受診 ・術前訪問・栄養指導やリハビリ見学 ・静脈留置（IVH 含む）など

4. 対象の選定

- 1) 成人・老年期を対象とする。
- 2) 手術を受ける対象とする。

5. 実習評価

- 1) 実習評価は評価表に基づいて5段階評価（秀、優、良、可、不可）とする。
- 2) 自己評価は学生自身が実施し、ボールペンで記載する。
- 3) 他者評価は実習指導者と協議の上、教員が行う。

5. 学内実習

1) 学内実習目標

- ① 周手術期の対象の状態をイメージ化できる。
- ② 術後合併症の視点で手術後の観察ができる。
- ③ 術後の対象の状態をアセスメントできる。
- ④ 留置物や装着物のある患者の早期離床が実施できる。
- ⑤ 周手術期の対象の看護を実践するための自己の課題を明確にできる。

2) 実習展開

学内実習 1 日目（実習 1 日目） 持参物：ジャージ、聴診器、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱの課題

時 間	本日の目標	実習内容	記録物
AM	1) 周手術期の対象と看護、治療環境についてイメージ化を図る。 【実習目標①②③④】 【学内実習目標①】 2) 手術を受ける患者の心身の変化、医療チームの連携、看護師の役割、治療環境について自己の手術見学の目的が明確にできる。 【実習目標①②⑤】 【学内実習目標⑤】	①周手術期の授業資料をもとに知識の確認をする。 ②知識確認テストを行い、振り返りをする。 ＊主な確認内容として以下をポイントに確認する。 ・麻酔法(局所麻酔・全身麻酔) ・術後合併症（出血、呼吸器合併症、疼痛、術後イレウス、DVT、感染症、せん妄など） ・ムーアの生体反応 ③術前・術中・術後患者の看護の実際 ・ビデオ学習（25 分×3 本） ・ビデオ学習を通して、各期のイメージ化と重要ポイントを記録用紙にまとめ提出する。 ④手術見学目的用紙を記載し、手術室見学の際に持参し、見学目標を明確にする。	・周手術期－ 1 ・周手術期－ 9
PM	3) 手術療法を受ける患者を総合的に理解できる。 【実習目標①②】 【学内実習目標①】	① 病院の概要と病棟・手術室の特徴を理解する。 ・患者紹介（実習先によっては当日の紹介） ・病院・病棟・手術室の特性 ・カンファレンスの進め方 ②事前学習 ・解剖生理・病態生理（疫学・病理・治療・検査・症状・看護） ・発達課題 ③シミュレーション学習の準備 ④術後のベッド作成（術前の治療環境）	・病院・病棟オリエンテーション用紙 ・周手術期－ 1

学内実習 2 日目（実習 2 日目） 持参物：ジャージ、聴診器、成人看護学方法論 I・II の課題

時 間	本日の目標	実習内容	記録物
AM	4) 周手術期の対象の状態をイメージ化できる。 5) 術後合併症の視点で手術後の観察ができる。 【実習目標②③】 【学内実習目標①②③】	① シミュレーション学習 (肺音・腸蠕動音・心電図モニター) ・術後観察とアセスメント ・ドレーン等の留置物・装着物の管理 ・創傷管理	・周手術期－1 ・周手術期－7
PM	4) 周手術期の対象の状態をイメージ化できる。 5) 留置物や装着物のある患者の早期離床が実施できる。 【実習目標②③】 【学内実習目標②③④】	② 演習 ・弾性ストッキング装着 ・早期離床 ・血糖測定 ③ 片付け	・周手術期－1 ・周手術期－7

学内実習 3 日目（実習 15 日目：最終日）

時 間	本日の目標	実習内容	記録物
AM	6) 手術療法を受ける患者の看護を総合的に理解できる。 【実習目標①～⑤】 【学内実習目標①～⑤】	① LTD-NP カンファレンス準備 術式、術後（前）何日目か等、事実を具体的に記載する	・周手術期－13
PM		① LTD-NP カンファレンス ② 知識確認テスト ③ 実習記録の整理と提出	・周手術期－13

6. 実習記録・その他の記録の記録用紙

1) 実習記録の配布については以下の通りである。

実 習 記 録	記録枚数	備考
① 実習行動計画表	3 枚	
② 周手術期-1 自己学習	2 枚	PC 可
③ 周手術期-2 手術室の記録	1 枚	
④ 周手術期-3 情報整理・解釈	4 枚	
⑤ 周手術期-4 アセスメント・統合	1 枚	関連図のみ PC 可
⑥ 周手術期-5 計画用紙	8 枚	PC 可

⑦ 周手術期-6 実施記録	10 枚	
⑧ 周手術期-7 フローシート	7 枚	
⑨ 周手術期-8 手術見学レポート表紙	1 枚	
⑩ 周手術期-9 手術見学目的	1 枚	PC 可
⑪ 周手術期-10 手術見学レポート用紙	1 枚	
⑫ 周手術期-11 実習のまとめ	1 枚	
⑬ 周手術期-12 検査・治療・経験録	3 枚	
⑭ 安全に関する体験報告書	1 枚	
⑮ 実習評価表	1 枚	
⑯ 臨地実習における体調管理	1 枚	
⑰ 技術経験録		

(注) ① 記録用紙の不足分は各自でコピーをする。

② 周手術期-12 は項目実習の場合に記録する。

(多職種カンファレンスへの参加、術後ベッド作成、ストーマ管理、創処置、血糖測定など)

2) 記録・技術経験録の提出

- ① インシデント・アクシデント発生後、速やかに実習指導者・教員に報告し、安全に関する体験報告書を直ちに担当教員に提出する。
- ② 安全に関する体験報告書は、ヒヤリハット事例も提出し、1 枚は最終日までに提出する。
- ③ 実習評価表の中間評価は教員の指示に従って提出し、最終評価は実習最終日の朝には記載し、教員へ提出する。
- ④ 実習記録は上記の表の順番でファイルする。
- ⑤ 手術見学レポートは、周手術期-8・9・2・10 の順で学校のレポート提出の方法に準じる。
- ⑥ 手術見学レポート (周手術期-8・9・2・10)、⑮実習評価表、⑭安全に関する体験報告書はパンチで穴を開けない。
- ⑦ 実習ファイル・実習評価表は、実習最終日の実習時間内に病棟へ提出する。
- ⑧ ⑰技術経験録は実習中、技術経験前に実習指導者へ提示して活用し、実習最終日に教員へ提出する。

周手術期-1 自己学習

学籍番号

学生氏名

周手術期-2 手術室の記録

学籍番号

学生氏名

術式:

麻酔:

手術時間:

麻酔時間:

術中経過の要約

総輸液量

総出血量

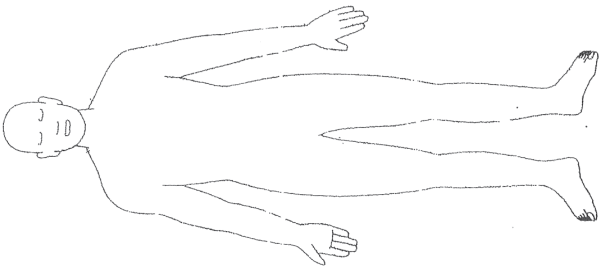
総輸血量

総尿量

手術体位と固定方法

対極板の貼付部位、褥瘡好発部位と褥瘡好発部位の皮膚状態

鎮痛薬の使用状況



周手術期-3 情報整理・解釈			
系統別	情報・整理	学籍番号	学生氏名
		解釈	推定問題

周手術期-4 アセスメント 統合
病態関連図(術後 日目)矢印の最後は合併症や看護診断名とし、二重枠で囲む 学籍番号 学生氏名

--	--

全体像把握

--

手術見学の目的(周手術期－9)のナンバリング毎に記載

周手術期－9 手術見学目的 実施施設・病棟	学籍番号	学生氏名 患者の年齢 (歳) 前半・後半) 性別(男・女)
診断名		
術式		
麻酔の種類		
手術見学の目的(実習目標を参考にナンバリングして箇条書き)		

周手術期－11 実習のまとめ	学籍番号	学生氏名
受け持ち期間 術前 日 術後 日目～ 日目 合計 日間		

周手術期－12 経験した検査・治療・援助技術	学籍番号	学生氏名
経験したこと(見学したこと、説明・指導を受けたことなど、事実をありのまま記載する)		
学び 1. 調べたこと(周手術期－1 自己学習へ記載し、別紙参照可とする) 2. 経験後、自分で考えたことや気付いたこと		